

間もなく台風シーズン到来

～備えあれば憂いなし～

台風や大雨は地震と違い、突然やってくるものではありません。風水害は、事前の対策で被害を最小限に抑えることができます。

雨が降り続くときや豪雨のときは、テレビやラジオなどの気象情報に注意するだけでなく、家の周りの変化にも気を配ることが大切です。少しでも異常や危険を感じたら、すぐに避難してください。

また、あわてずに避難できるよう、普段から避難場所や経路、家族との連絡方法などを確認しておくことも大切です。

台風が来る前に…

- 食料や飲料水、懐中電灯、ラジオ、ロウソク、貴重品などをまとめた非常持ち出し袋を準備しておきましょう。
- 雨どいが詰まって排水が悪くなっていないか、確認しておきましょう。
- 物干し竿や植木鉢などは、飛ばされないよう屋内に入れておきましょう。
- 庭木の枝が折れかかっていたり、倒れる心配が無いが確認しておきましょう。
- ブロック塀などにひび割れが入っていないか、確認しておきましょう。
- 屋根に破損部分がないか、確認しておきましょう。
- 外出は控え、家族そろって気象情報に注意しましょう。



子どもたちに災害の心構えを説明

「大雨注意報！
大雨警報！」
そのときあなたはどうします？

土砂災害を未然に防止

夏は台風や集中豪雨が発生しやすく、暴風雨や土砂災害による被害が各地で出ています。

「備えあれば憂いなし。」と、よく言われますが、日頃から家の周りや危険箇所を確認しておくとともに、家族や隣近所においても安全対策を話し合っておきましょう。

みんなで防ごう土砂災害

町では、こまちダム見学会にあわせ、小野新町小学校・雁股田分校の子どもたちに大雨が降ったときの注意事項について、説明を行いました。

幼い子どもにとって「遊ぶこと」「食べること」「寝ること」は大切な“仕事”です。特に食べることは生命に関わるとても大切なことです。

中央さくら保育園では、いろいろな体験をとおして食べるのが楽しいと感じてもらえるよう『食育』を実践しています。

現在0歳児から5歳児まで、104名の子ども達が元気に生活をしています。どの子どもも昼食時には、「今日の給食なーに」と楽しみにしています。年長組になると配膳のお当番があり、かわいいエプロン姿で、張りきってお手伝いをしてくれます。また、おかずは自分たちでお皿に盛り付けています。初めは、慣れない手つきでトングや取箸を使うのに苦労していましたが、回数を重ねるごとに上手になってきました。「きれいによそえたね。」の言葉に得意顔の子どもたちです。自分で盛り付けることによって、今まで苦手だった野菜も、ずいぶん食べられるようになってきました。「お野菜そんなにとって大丈夫。」の問いかけに「食べられるよ。だって残すともったいないでしょう。」と嬉しい答えが返ってきます。

園庭には子ども達がバケツに植えた稲やピーマン、なす、ミニトマトなどがすくすくと育っており、クッキング保育のカレー用に、収穫を楽しみにしています。

野菜などを育てたり、食事作りの参加など身近なところから子どもたちが食に関心を持ち、正しい食習慣を身に付けてもらいたいと願っています。



「どのくらい食べようかな」



「はやく赤くならないかな」

中央さくら保育園での『食育』
いろいろな体験による食への興味